

櫛田川で確認された魚種一覧（平成23年度調査）

No.	目名	科名	和名※1	生活型※2	夏季	秋季	重要種		外来生物法	
							環境省	三重県		
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ類※1	淡	○	○	VU	VU		
2	コイ	コイ	オイカワ	淡	○	○				
3			カワムツ	淡	○	○				
4			アブラハヤ	淡	○	○				
5			タカハヤ	淡	○	○				
6			ウグイ	回	○	○				
7			カマツカ	淡	○	○				
8			ニゴイ属	淡		○				
9			イトモロコ	淡	○				VU	
10			コウライモロコ	淡	○	○				
11			ドジョウ	ドジョウ	ドジョウ	淡	○	○		
12	シマドジョウ	淡			○	○				
13	ナマズ	アカザ	アカザ	淡	○	○	VU	VU		
14	サケ	アユ	アユ	回	○					
15	スズキ	サンフィッシュ	オオクチバス（ブラックバス）	淡	○				特定	
16			ハゼ	カワヨシノボリ	淡	○	○			
				ヨシノボリ属	-	○				
5目7科16種				種数	15種	13種	2種	3種	1種	

- ※1 種名・配列は、「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（平成22年、国土交通省）」に準拠した。
 ※2 生活型は、汽・海：汽水・海水魚、回：回遊魚、淡：純淡水魚、-：不明を示す。
 ※3 環境省レッドリスト及び三重県レッドデータブック2005動物編に記載されている、スナヤツメとして抽出した。

重要種などの指定状況

環境省：レッドリストー汽水魚・淡水魚類ー
 三重県：三重県レッドデータブック 2005 動物編
 EN：絶滅危惧ⅠB類
 VU：絶滅危惧Ⅱ類
 NT：準絶滅危惧
 DD：情報不足

外来生物法：特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律
 特定：外来生物法により特定外来生物に指定されている種
 要注意：外来生物法により要注意外来生物に指定されている種

三重県松阪建設事務所
 事業推進室流域課
 〒515-0011
 松阪市高町 138（松阪庁舎 5 階）
 電話番号：0598-50-0582
 ファックス：0598-50-0624
 e-mail：mkenset@pref.mie.jp

櫛田川 身近な生き物ガイドマップ （魚編）



三重県松阪建設事務所

櫛田川の概況

櫛田川は、その水源を三重県松阪市(旧飯南郡飯高町)と奈良県吉野郡東吉野村の県境に位置する高見山(標高1,249m)に発し、蓮川等の支川と合流し、東に流れ、伊勢平野に出て佐奈川と合流した後、松阪市法田で祓川と分かれて、北に流れを変えて伊勢湾に注ぐ、幹線流路延長85km、流域面積461km²の一級河川です。

櫛田川の流域は山地が約81%を占めています。年平均降水量は約2300mmであり、総流出量0.7億m³といった豊富な水量から、主として農業用水に利用されています。また、森林資源にも恵まれ、その80%が針葉樹です。

河川水辺の国勢調査について

松阪建設事務所では県管理区間の櫛田川の中・上流に生息する生き物を調べる「河川水辺の国勢調査」を実施しています。これまで櫛田川では平成8年度、13年度、18年度に魚類調査を実施しています。平成23年度に実施した魚類調査では、合計16種の魚が確認されました。このなかにはアマゴ、アユ等の清流魚が含まれている一方、オオクチバスなど問題となっている外来種も確認されています。

櫛田川では多くの種類の魚が確認されていますが、川の環境が悪化すると汚れに強い魚しか棲むことができなくなってしまいます。これからも様々な生き物が棲める川の環境をみんなで協力して守っていきましょう。

櫛田川の河川環境

～櫛田川上流域～

早瀬や平瀬などの流れのあるところで、オイカワやカワヨシノボリ、アユが見られます。淵などの流れのないようなところでは、アブラハヤやドジョウが確認されています。

～櫛田川中流域～

早瀬や平瀬などの流れのあるところで、オイカワやカワヨシノボリが多く見られます。淵などの流れのないようなところでは、アブラハヤやカマツカが多く見られます。

また、三重県レッドデータブックで絶滅危惧Ⅱ類に指定されているイトモロコ、スナヤツメ、アカザが確認されています。一方、外来種として問題となっているオオクチバスも確認されています。

～その他～

櫛田川水系では、アユ、アマゴなどの放流が行われており、遊魚漁も盛んです。


櫛田川の豊かな自然を守り、魚たちが生息する環境を壊さないようにしていくことが大切です。

【上流域】

オイカワ	
河川の様々な環境に生息する。産卵期(春～夏)の雄は赤や青緑色を帯びる。	

カワヨシノボリ	
河川中流域に生息する。流れの緩やかな河川に生息するが、止水域では見られない。	

アブラハヤ	
河川の上流域から下流域にかけて生息し、生息魚種が少ないと下流まで現れる。	

アユ	
春になると稚魚が河川を遡上し、秋には成魚が瀬で産卵する。石に生えた付着藻類を食べる。	

カワムツ	
河川の上流、中流域に多くみられる。岩などが点在する場所に多く、平坦な場所には少ない。	

カマツカ	
河川の中・下流域や湖の沿岸に生息する。砂底や砂礫底のところに多い。	



【中流域】

スナヤツメ類	重要種
	
幼生は中流から下流の泥底に潜っている。成体になると餌をとらず、翌年に産卵し死んでしまう。	

アカザ	重要種
	
上流から中流の、瀬の石の下や間に生息する。ひれの棘を不用意につかむと刺されて痛い。	

イトモロコ	重要種
	
川の中・下流の緩流域で砂礫底の底近くに多い。雑食性でプランクトンや付着藻類などを食べる。	

オオクチバス	外来種
	
池や沼、流れの緩やかな水域に生息する。在来の魚やエビなどを大量に食べるため問題になっている。	